

■佐多稲子 小説家。小学校を中退して働き始め、プロレタリア作家として登場、晩年まで優れた作品を書き続けた。

さたいねこ

日露戦争始・1904＝ 長崎市生れ。両親とも10代だったため、一旦父方の大叔父のもとに入籍し、

日露戦争終・1905＝ 1歳：

アラビヤ創刊・1908＝ 4歳： 父母の戸籍に入ったが、

伊藤博文暗殺1909＝ 5歳： 母が死去。

明治天皇没・1912＝ 8歳：

大正政変・・・1913＝ 9歳：

21ヶ条要求・1915＝11歳： 父の三菱造船所を退職後、東京に移り住むが、

__貧窮のため、小学校を中退して、生計を助けるべく女工になり、

__職を転々するうち、本を読むため、日本橋丸善の店員となる。

原敬首相暗殺1921＝17歳：

水平社結成・1922＝18歳：

護憲三派圧勝1924＝20歳： __最初の結婚は夫婦心中未遂という悲惨な結果となるが、長女の誕生に希望を与えられて再出発、

円本時代始・1926＝22歳： __カフェに勤め、中野重治・窪川鶴次郎ら{驢馬}の同人を知り、

円本時代始・1926＝22歳： __窪川と再婚。夫の作家生活を支えるだけでなく、自分も書いてよいのだと、中野らに励まされ、

共産党事件・1928＝24歳： __*苦しい体験を素直に表現した処女作「キャラメル工場から」を発表、プロレタリア女流作家として知られるようになる。

世界恐慌・・・1929＝25歳： 「煙草女工」「レストラン洛陽」、

海軍軍縮条約1930＝26歳： 「模範店員」などを発表。

満州事変・・・1931＝27歳：

五一五事件・1932＝28歳： __夫とともに、日本共産党に入党。{働く婦人}の編集委員として活躍。夫が検挙され、

国際連盟脱退1933＝29歳： __出獄すると、仕事や革命と家庭生活の間の矛盾に悩み始め、

帝人疑獄事件1934＝30歳： __「牡丹のある家」以降、プロレタリア文学運動が退潮して行くなか、その才能が発揮されて行き、

日中戦争始・1937＝33歳：

健保+総動員 1938＝34歳： 夫の不倫が発覚、夫婦関係のありかたを見つめた__傑作長編「くれなゐ」を生み、

大政翼賛会・1940＝36歳： 「女性の言葉」「女三人」「美しい人たち」「樹々新緑」。*「素足の娘」はベストセラーになった。

日米開戦・・・1941＝37歳： 「日々の伴侶」「季節の随筆」「心通はむ」「扉」「夢多き誇」、

近代の超克・1942＝38歳： 「香に匂ふ」、

創価学会検挙1943＝39歳： 「女性と文学」「気づかざりき」、

年金+総武装 1944＝40歳： 「若き妻たち」、

敗戦・・・・・・1945＝41歳： __離婚し、早世した叔父の養家が廃家となっていたのを興して、佐多稲子と名乗り、

新憲法公布・1946＝42歳： 「たたずまひ」。*新日本文学会・婦人民主クラブに属して活動。「私の東京地図」の連載で、再出発し、

新憲法施行・1947＝43歳： 「旅情」、

極東裁判決・1948＝44歳： 「私の長崎地図」「四季の車」、

三大事件・・・1949＝45歳： 「開かれた扉」。

__抑制のきいたきめ細かい筆づかいで、旺盛な創作活動を続けて行く。

独立回復・・・1951＝47歳：

自衛隊発足・1954＝50歳： 「黄色い煙」、

55年体制始・1955＝51歳： 「燃ゆる限り」「子供の眼」「夜の記憶」「機械のなかの青春」「みどりの並木路」「燃ゆる限り」、

国連加盟・・・1956＝52歳： 「いいらしい恋人たち」「智恵の輪」「舵をわが手に」「夜を背に昼をおもてに」「風と青春」「心の棚」「ある女の戸籍」

「女の一生」、

なべ底不況・1957＝53歳： 「樹々のさやざ」「罪つくり」「体の中を風が吹く」「人形と笛」、

イスカンダル・1958＝54歳： 「愛とそれと」。翌年にかけて、__「佐多稲子作品集(全15巻)」。

美智子妃・・・1959＝55歳： 「歯車」「ばあんばあん」「働く女性の生きかた」。

安保闘争・・・1960＝56歳： 「灰色の午後」、

タイタイ病始・1961＝57歳： 「振りむいたあなた」、

全国総合計画1962＝58歳： 「一つ屋根の下」「夜と昼と」。__「女の宿」により女流文学賞。

TV宇宙中継始1963＝59歳： 「あねといもうと」「女茶わん」、

東京カンピョク 1964＝60歳： 「溪流」。__共産党を除名される。

大学紛争始・1965＝61歳： 「生きるということ」「女たち」、

いざなぎ景気1966＝62歳： 「女の道づれ」「塑像」、

美濃部都知事1967＝63歳： 「風になじんだ歌」、

全共闘・・・・・・1969＝65歳： 「あとに生きる者へ わが心の祈りをこめて」「ひとり歩き」「哀れ」、

大阪万博・・・1970＝66歳： 「重き流れに」、

沖縄返還・・・1972＝68歳： __「樹影」により野間文芸賞。

石油ショック1973＝69歳： 「ひとり旅ふたり旅」、

角栄金脈辞任1974＝70歳： 「ふと聞えた言葉」、

田中角栄逮捕1976＝72歳： __「時に佇つ」で川端康成文学賞。

JALハイジャック・1977＝73歳： 「お水取り」。以後3年、__「佐多稲子全集」全18巻、

成田衝突・・・1978＝74歳： 「由縁の子」「きのうの虹」、

革新大敗北・1979＝75歳： 「遠く近く」「時と人と私のこと」、

・・・・・・1981＝77歳： 「年々の手応え」、

中曽根内閣・1982＝78歳：

デイズ・ユート・1983＝79歳： 「年譜の行間」。__「夏の葉」で毎日芸術賞、長年の作家活動による現代文学への貢献により朝日賞。

・・・・・・1984＝80歳： 「出会った縁」、

ジャンボ機墜落1985＝81歳：

バブル始・・・1986＝82歳： __「月の宴」で読売文学賞を受賞するなど、傑作を書き続けて、

竹下登内閣・1987＝83歳： 「小さい山と椿の花」、

昭和天皇没・1989＝85歳： 「思うどち」、

55年体制終・1993＝89歳： 「あとや先き」、

自社さ連立・1994＝90歳： 自選短篇集「白と紫」、

・・・・・・1998＝94歳： __没した。

「女たちの20世紀・100人」、インターネットWikipedia、